

# 2019年度資金分配団体申請 様式2事業計画書

2019年度初版

1. 申請事業名：中国5県休眠預金等活用コンソーシアム休眠預金活用事業

2. 申請団体名：特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

3. 助成事業の種類：草の根活動支援事業

4. 申請する事業期間：2019年度～2022年度

5. A事業費：71,460,000円

(Bうち助成金申請額：70,560,000円 98.7% B/A)

プログラム・オフィサーの伴走支援の活動費：22,672,000円\* 評価関連経費：6,446,000円\*

\*Bの助成金申請額とは別枠です。

## 事業計画書の記述項目

別紙「事業計画書作成の手引き」を参考に以下の項目に沿って事業計画書を作成してください。  
次ページ以降の記入スペースは適宜増減してください。ただし、全体の分量は40ページ（表紙と本スライドを含める）以内とします。※原則、パワーポイントをご利用ください。

### 1. 申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

- 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標
- 1.2. 原因分析と解決策
- 1.3. 事業の成果目標と内容

### 2. 包括的支援プログラム

- 2.1. 実行団体の募集
- 2.2. 助成金等の分配
- 2.3. 非資金的支援

### 3. 社会的インパクト評価の実施内容と方法について

### 4. 進捗管理、リスク管理と持続可能性

- 4.1. 進捗管理
- 4.2. リスク管理
- 4.3. 持続可能性

### 5. 実施体制と従事者の役割

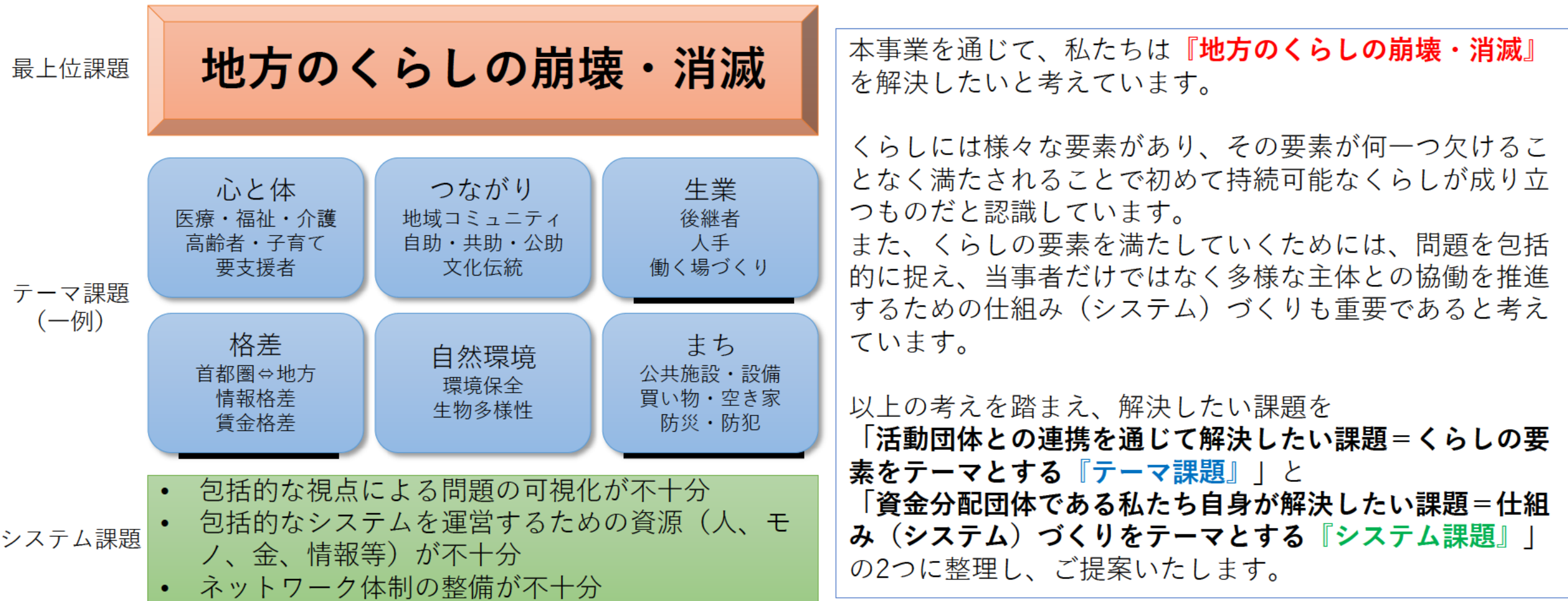
### 6. 広報戦略および連携・対話戦略

### 7. 関連する主な実績

## 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

- ・ 申請する事業により解決したい課題（社会的ニーズ）



## 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

- ・現状の認識

## 地方のくらしの崩壊・消滅の解決

個別のアプローチ  
だけでは達成できない

包括的なアプローチ  
で達成

### 【テーマ課題の現状】

地域や分野に専門性を持つ活動団体による多様な取り組みが行われているが、

- ・ 包括的に取り組めていない
- ・ テーマが限定的なための資源（人、モノ、金、情報等）が不十分

### 【システム課題の現状】

- ・ 包括的な視点による問題の可視化が不十分
- ・ 包括的なシステムを運営するための資源（人、モノ、金、情報等）が不十分
- ・ ネットワーク体制の整備が不十分

地方のくらしの崩壊・消滅を解決するためには、人口減少や少子高齢化、格差などを原因とする多種多様な問題を解決していく必要があります。この多種多様な問題はそれぞれが独立しているわけではなく、相互に影響を与えながら存在しています。そのため、**問題解決には個別のアプローチだけではなく、包括的なアプローチが必要**であると考えています。

テーマ課題に取り組む活動団体は、それぞれが地域や分野に専門性を持ち、それらを活かしながら課題解決に向けて日々尽力しています。一方で、注力する地域や分野が限定的になりがちで、『**包括的な視点で問題を捉える力**』や、『**活動に必要な資源（人、モノ、金、情報等）を集める力**』が不足しがちであると認識しています。

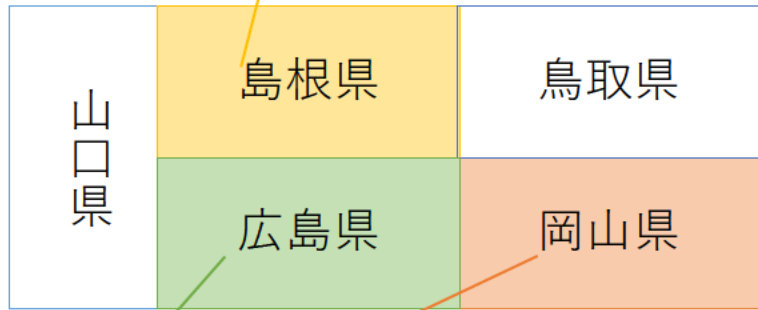
包括的なアプローチを可能にするためには、『**包括的な視点による問題の可視化**』、『**包括的なシステムを運営するための資源調達**』、『**多様な主体が参画するネットワークの運営**』等が必要ですが、現状、十分なシステムは構築されていないと認識しています。

# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標 ・ 地域・分野等（テーマ課題）

テーマ課題の地域については、中国5県を対象とします。  
※本年度事業においては、3県/3テーマでの実施を想定しています。

**【本年度の案】**



テーマA  
活動団体：島根県内の団体  
支援体制：島根県担当PO中心に実施  
※PO=プログラムオフィサー

テーマB  
活動団体：岡山県内の団体  
支援体制：岡山県担当PO中心に実施

テーマC  
活動団体：広島県内の団体  
支援体制：広島県担当PO中心に実施

テーマ課題の分野については、地域のニーズを踏まえ、JANPIAとの協議を経て確定する方針ですが、現時点では以下の分野を想定しています。

想定するテーマ課題の分野	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援	④働くことが困難な人への支援	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援	⑥地域の働く場づくりの支援	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援
地域の交通インフラ整備						☆	★
地域資源を活用した持続可能な地域と生業づくり（空き家活用）	※公募要領6. 「優先的に解決すべき社会の諸課題」との関連性 ★…強く関連する ☆…関連する						
子どもシェルターづくり	★	☆					
地域資源を活用した持続可能な地域と生業づくり（エコツーリズム）						★	☆
「子ども食堂・地域食堂モデル」生活困窮者が集える場づくり	☆	☆	☆	★	★		

# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

- ・ 地域・分野等（システム課題）

システム課題の地域については、中国5県を対象とし、コンソーシアムを組んで事業を運営します。

コンソーシアム構成員それぞれが担当者を置き、各県での調査や事業を通じて得た知見や経験、各種情報を中国5県で共有し、包括的なアプローチを可能とするシステムづくりに取り組みます。

### 【本コンソーシアム構成員】

- ・ 公益財団法人とっとり県民活動活性化センター
- ・ 公益財団法人ふるさと島根定住財団
- ・ 特定非営利活動法人岡山NPOセンター
- ・ 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター
- ・ 特定非営利活動法人やまぐち県民ネット21



システム課題のテーマについては、JANPIAとの協議を経て確定する方針ですが、現時点では以下のテーマを想定しています。

テーマ	主な内容
包括的な視点による問題の可視化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通のビジョンや課題意識の共有</li> <li>・ 参画する主体のポジショニングの共有</li> </ul>
包括的なシステムを運営するための資源調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人づくり</li> <li>・ 業務基盤づくり</li> <li>・ 活動資金づくり</li> </ul>
多様な主体を巻き込むネットワークの運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信頼づくり</li> <li>・ 常日ごろの関係づくり</li> <li>・ ネットワークの活性化</li> </ul>

# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

- ・中長期的な事業目標（中長期的、最終ゴールのイメージ）

最終ゴールのイメージ

**住み慣れた地域において、  
豊かな人間関係の中で、  
くらし続けられる社会の達成**

期間を定めることや定数的な事業目標で  
図ることは適さない

中長期的な事業目標を  
図る指標

**結果ではなく  
経過の蓄積とストーリーの発信で図る**

最終ゴールのイメージを『**住み慣れた地域において、豊かな人間関係の中で、くらし続けられる社会の達成**』と想定しています。

このイメージ達成のためには、様々なくらしの要素が何一つ欠けることなく満たされていることが必要ですが、くらしの要素が満たされているというゴールは、その時々社会や環境、人々の価値観によって変化していくことが想定されるため、**期間を定めることや定数的な事業目標で図ることは適さない**と考えます。

このことから、本事業では**経過の蓄積**（テーマ課題やシステム課題に取り組む中で得られた知見や経験をどれだけ収集・分析・蓄積できたか）と、**ストーリーの発信**（蓄積した知見や経験を次世代や他地域で活用できるようにどれだけ発信できたか）を中長期的な事業目標を図る指標とします。

## 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

### 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

- ・中長期的な事業目標（中長期的、最終ゴールのイメージ）

中長期的な事業目標を  
図る指標

### 結果ではなく 経過の蓄積とストーリーの発信で図る

#### 【経過の蓄積の中長期的な事業目標】

- 包括的アプローチによるテーマ課題解決
- 課題解決の要素の経過を分析・整理し、その知見と経験を蓄積

#### 【ストーリーの発信の中長期的な事業目標】

- 蓄積した知見と経験を還元し、多様な地域や分野、活動団体、他の資金分配団体へ波及
- 休眠預金に対する社会からの共感

結果ではなく経過の蓄積とストーリーで図る中長期的な事業目標は、以下の事業目標を**9年後に達成**することを目指し進めていきます。（※本コンソーシアムで継続して受託できた場合）

#### 経過の蓄積の中長期的な事業目標

採択された活動団体のテーマ課題を**包括的アプローチによって解決**すると同時に、『相互理解の促進』『人づくり』『業務基盤づくり』『信頼づくり』『ネットワークの活性化』といった課題解決の要素の経過を分析・整理し、その**知見と経験を蓄積**します。

#### ストーリーの発信の中長期的な事業目標

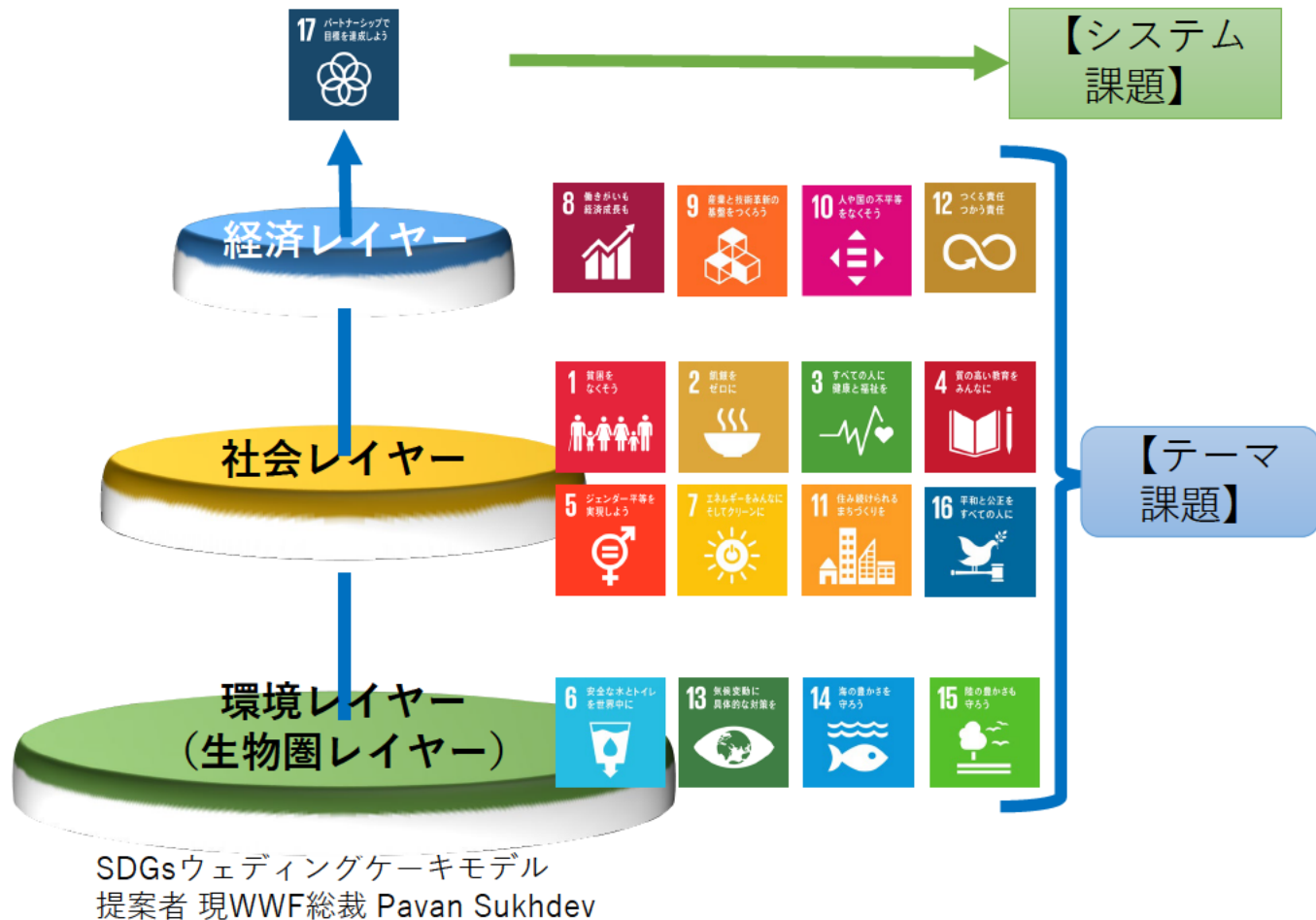
蓄積した**知見と経験を広く社会に還元**することで、多様な地域や分野、活動団体、他の資金分配団体の取り組みの一助とします。また、社会全体に休眠預金の活用が社会問題の解決にとって有効かつ効果的な手段であるということを示し、**社会からの共感**を得ます。



# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.1. 解決したい課題（社会的ニーズ）と中長期的な事業目標

- ・ 国連SDGs（持続可能な開発目標）の169のターゲットとの関連性



「SDGsを達成するためには、複数の目標にまたがって進捗を支援する包括的なアプローチが欠かせない」という基本的な考え方に立ち、本事業に取り組んでまいります。

SDGsウェディングケーキモデルにおける、経済レイヤー、社会レイヤー、環境レイヤーについては取り組む**テーマ課題**によって国連SDGs（持続可能な開発目標）の169のターゲットとの関連性は様々であると思定していますが、常に**SDGsとの関連性を意識した事業設計・運営**を行ってまいります。

また『17. パートナーシップ』については、**システム課題**に掲げる目標と強く関連性を持っていると認識しています。

特に関連性の強いターゲットは『17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。』であると考えます。

# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.2.原因分析と解決策

- ・ 1.1.で記載した課題の原因分析とその解決策の検討（1.3.の事業内容につながる因果関係を示してください。）

課題

### 地方のくらしの崩壊・消滅

原因分析

- 暮らし続けるために必要な要素が満たされていない
- 1つの活動が成功しても、それだけではくらしの崩壊・消滅は解決できない
- 問題を大きく捉えすぎると解決に結びつかない



### 包括的なアプローチによる解決

- 基本方針 1  
包括的な視点による問題の可視化
- 基本方針 2  
包括的なシステムを運営するための資源調達
- 基本方針 3  
多様な主体が参画するネットワークの運営

解決策

最上位課題である『地方のくらしの崩壊・消滅』の原因は、その地方で「暮らし続けることができない」ということにあり、「暮らし続けることができない」ということの原因は、くらしに必要な要素が満たされていないということであると想定しています。（※スライド3参照）

くらしの要素は多様であり、1つの団体による活動だけですべてを満たすことは不可能です。また、**1つの問題だけが解決されても『地方のくらしの崩壊・消滅』は解決できないと想定しています。**一方で、**問題を大きく捉えすぎると、当事者意識が薄れる、ターゲットが曖昧になる、等の理由で効果的な活動に結びつかない**ことも想定しています。

私たちはこの問題を**包括的なアプローチで解決**したいと考え、3つの基本方針を立て取り組んでまいります。

# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

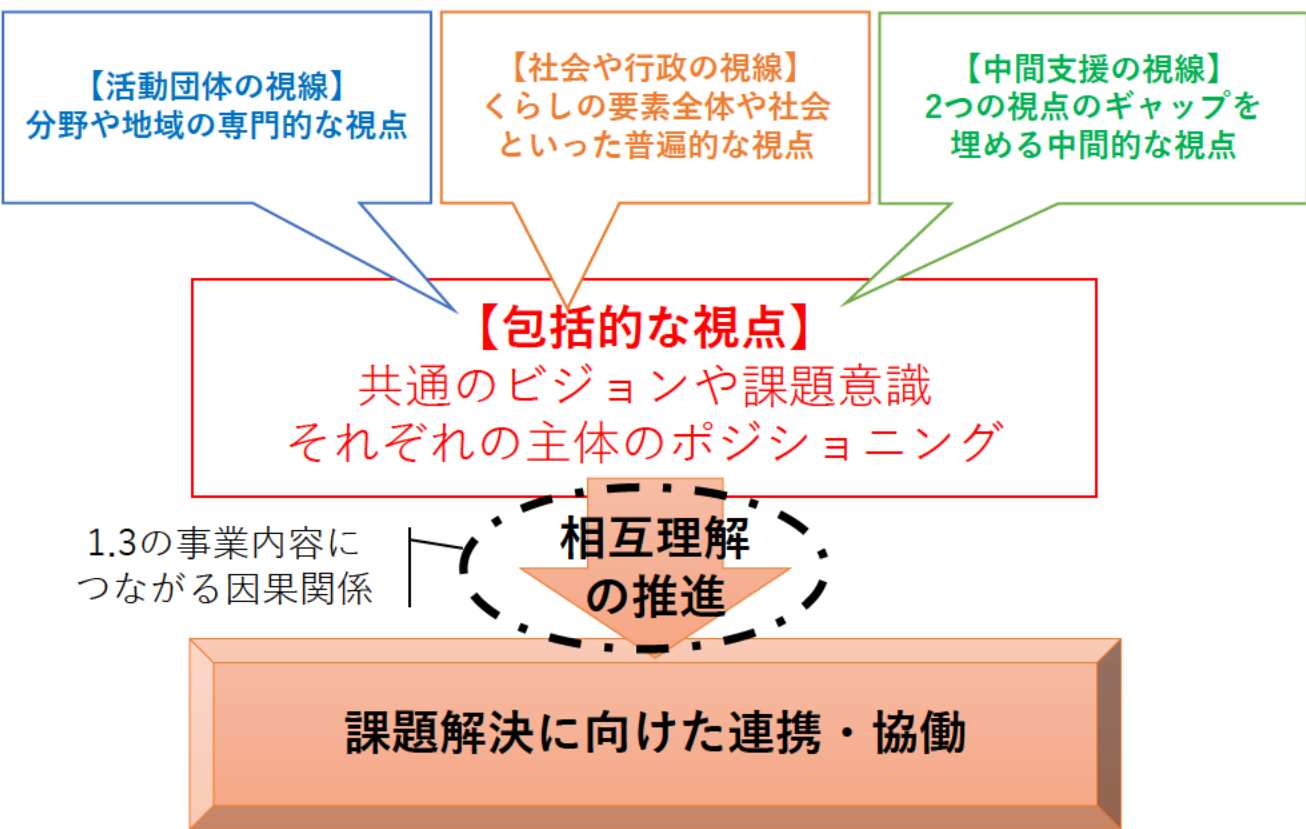
## 1.2.原因分析と解決策

- ・ 1.1.で記載した課題の原因分析とその解決策の検討（1.3.の事業内容につながる因果関係を示してください。）

### 包括的なアプローチによる解決

基本方針 1

包括的な視点による問題の可視化



基本方針 1 『包括的な視点による問題の可視化』

包括的な視点を、3つの視点で整理しています。

- 分野や地域の専門的な視点：活動団体の視線
- くらしの要素全体や社会といった普遍的な視点：社会や行政の視線
- 2つの視点のギャップを埋める中間的な視点：中間支援（当コンソーシアム）の視線

ここでの問題の可視化とは、上記の3つの視点で問題の全体像を示すことを想定しています。

問題の全体像を本事業に係る多様な主体で共有することで、「共通のビジョンや課題意識」、「それぞれの主体のポジショニング（課題意識、出来ること（強み）、苦手なコト（弱み）、目指す姿 等）」を明らかにして、課題解決に向けた連携・協働の土台となる『相互理解』を推進します。

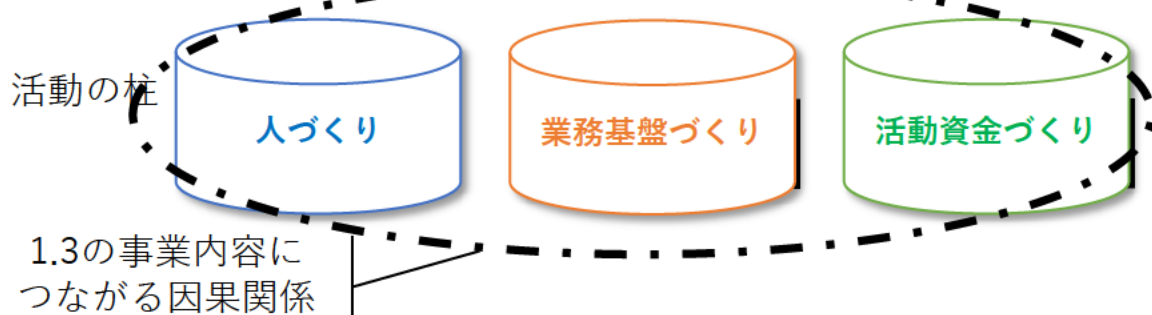
## 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.2.原因分析と解決策

- ・ 1.1.で記載した課題の原因分析とその解決策の検討（1.3.の事業内容につながる因果関係を示してください。）

## 包括的なアプローチによる解決

基本方針2  
包括的なシステムを運営するための資源調達



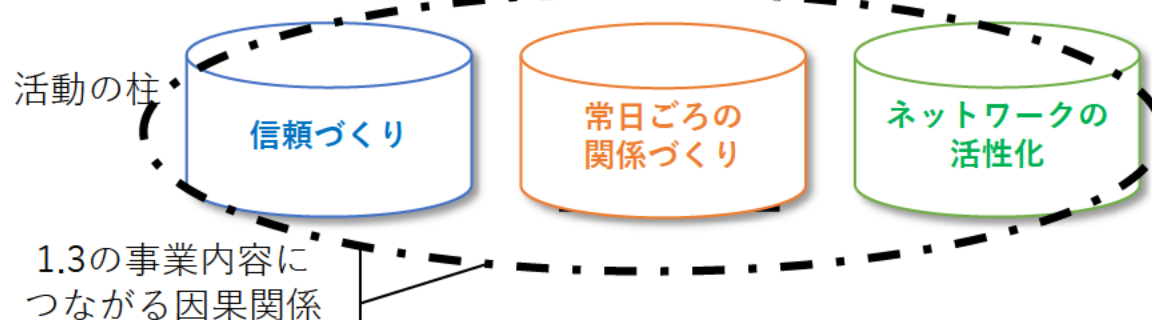
## 基本方針2 『包括的なシステムを運営するための資源調達』

包括的なシステムを運営するための資源調達を、3つの活動の柱を立てて実施してまいります。

- **人づくり**：システム運営者（ここではプログラムオフィサーを想定）の登用と育成
- **業務基盤づくり**：システムの基盤となる効率的で持続可能な事務局機能の構築
- **活動資金づくり**：システムを維持・活用するための資金調達

## 包括的なアプローチによる解決

基本方針3  
多様な主体が参画するネットワークの整備



## 基本方針3 『多様な主体が参画するネットワークの運営』

多様な主体が参画するネットワークの運営を、3つの活動の柱を立てて実施してまいります。

- **信頼づくり**：誠実な業務執行と情報公開を通じた当コンソーシアムの実績蓄積
- **常日ごろの関係づくり**：事業を通じて蓄積した知見や経験をネットワーク参加者に様々な形で還元、ネットワーク参加者間の交流促進
- **ネットワークの活性化**：助成対象となった活動団体の取り組みを、ネットワーク参加者が様々な形で参画する協働促進

1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

1.3.事業の内容と成果目標

・事業活動により短期的に期待される成果目標

成果目標	KPI	中長期的な事業目標との因果関係
相互理解の促進	□ ネットワーク参画団体（個人）数： <b>70団体</b>	経過の蓄積
人づくり	□ プログラムオフィサー育成人数： <b>5名</b>	経過の蓄積
業務基盤づくり	□ 事務局機能の体系化 各種テンプレート： <b>必要数</b> 規約の整備数： <b>必要数</b>	経過の蓄積
活動資金づくり	□ 休眠預金の自主財源として調達した金額： <b>100万円</b>	経過の蓄積
信頼づくり	□ 健全な業務運営を担保するガバナンス・コンプライアンスの整備： <b>当コンソーシアムとしての第三者組織評価ベーシック評価認定</b> （一般財団法人非営利組織評価センター）	経過の蓄積
常日ごろの関係づくり	□ ネットワーク関係者と共有した時間、実施し関係づくりに関する取り組み回数： <b>30回</b> □ ネットワーク関係者や社会に還元した知見や経験の数、発信したストーリーや情報の数： <b>15回</b>	ストーリーの発信
ネットワークの活性化	□ 実現した協働の数： <b>3回</b>	経過の蓄積

事業活動により短期的に期待される成果目標については、1.2においてお示しした1.3との因果関係を軸に図ってまいります。また、KPIの**達成目標年度は2022年度末**（本事業の期末）を想定しています。中長期的な事業目標との因果関係については、『**経過の蓄積**』は相互理解の促進、人づくり、業務基盤づくり、活動資金づくり、信頼づくり、ネットワークの活性化が該当し、『**ストーリーの発信**』は常日頃の関係づくりが該当すると整理しています。

## 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.3.事業の内容と成果目標

- ・具体的な事業の内容

成果目標	具体的な事業の内容
相互理解の促進	<input type="checkbox"/> 説明会の実施 <input type="checkbox"/> 協働を評価基準に組み込んだ助成事業の設計 <input type="checkbox"/> 活動団体への伴走支援 <input type="checkbox"/> 活動団体と専門家のマッチング <input type="checkbox"/> 評価関連事業の実施
人づくり	<input type="checkbox"/> プログラムオフィサー研修への参加 <input type="checkbox"/> 自主的な勉強会等の開催
業務基盤づくり	<input type="checkbox"/> 各種テンプレート、規約の作成
活動資金づくり	<input type="checkbox"/> ファンドレイジング
信頼づくり	<input type="checkbox"/> 第三者組織評価ベーシック評価取得
常日ごろの関係づくり	<input type="checkbox"/> 活動団体への伴走支援 <input type="checkbox"/> 業務の適切な記録と報告 <input type="checkbox"/> HPやSNS等での情報発信 <input type="checkbox"/> 報告会や交流会の実施
ネットワークの活性化	<input type="checkbox"/> 協働コーディネート

成果目標を達成するために実施する具体的な事業については、JANPIAとの協議を踏まえ、優先順位をつけながら、当コンソーシアム全体で適時実施していく方針です。

■事業期間

2019年～2022年

■受益者

採択された活動団体

活動団体が行き組むテーマ課題の対象となる人

■地域

中国5県（本事業においては3県を想定）

■分野

採択されたテーマ課題による

# 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

## 1.3.事業の内容と成果目標

- ・アピールポイント

### 【革新性】 包括的アプローチ

社会問題には様々な要因が絡み合っており、最も目立つ部分を、分野や地域でカテゴライズしているのが現状であると考えます。私たちは問題を包括的に捉え、多様な主体の協働をもって問題解決に取り組めます。

### 【革新性・継続性】 コンソーシアムによって得られる大きな成果

草の根活動支援事業の現状の枠組みでは、中国5県から1県だけが選定されるものと認識しています。中国地方において草の根活動をしている活動団体を1つの資金分配団体だけでカバーすることは限りなく困難であり、また、地域との心理的・物理的距離感の面からも非効果的であると考えています。

一方で、個々の資金分配団体が乱立することによる非効率性も同時に認識をしています。

この2つの課題を乗り越えるためには、**各地域に専門性を持つ団体が連携して資金分配団体としてミッションや事業を共有しながら実施するコンソーシアム形式が適切**であると考えています。

当コンソーシアムの構成団体である5団体は、すでに**10年以上の連携実績**を持ち、現在も定期的に情報共有や勉強会、協働事業を実施しています。この信頼関係をベースに本事業に取り組むことで、『**1事業で5県を現実的に対象にできる**』、『**共通のノウハウを身につけ、かつ地域に専門性を持ったプログラムオフィサーを5県同時に育成できる**』、事業実施によって得た『**知見や経験を5県同時に共有できる**』といった大きな成果が期待できます。

また、当コンソーシアムの構成団体である5団体は地域の問題解決に向けて連携しながら支援活動を実施しています。休眠預金の有無にかかわらず、地域の問題解決に取り組む活動団体の支援は継続してまいります。

## 1.申請事業により解決したい課題、事業の目標および内容

### 1.3.事業の内容と成果目標

- ・ アピールポイント

#### 【波及効果】システム課題の解決は波及効果と同意

本コンソーシアムが示しているシステム課題は、地域や分野固有の問題ではなく、普遍的な問題であると認識しています。

システム課題を解決するためのプロセスや成果の可視化・共有は、本事業の目的の1つであり、これを達成することがそのまま同じ課題意識を持つ地域や団体への波及へとつながります。

#### 【連携と対話】連携と対話（協働）が本事業の核心

本コンソーシアムが示している最上位課題『地方のくらしの崩壊・消滅』の解決には**多様な主体による協働が最も適切な手段**であると考えています。『包括的アプローチ』『コンソーシアムによる提案』『システム課題の解決』はいずれも協働の要素です。

**本事業を実施することが、そのまま連携と対話を深め、促進する設計**となっています。



## 2. 包括的支援プログラム

### 2.1. 実行団体の募集

- ・ 募集团体の数、助成金額（総額と1団体当たり）、募集方法、案件発掘の工夫

#### 【募集团体の数】

3団体（1県1団体を募集する。今年度は3県で実施を想定。）

#### 【助成金額】

総額	<u>6, 000万円</u>
1団体当たり	<u>2, 000万円</u>

#### 【募集方法】

説明会の実施  
DMの発送  
SNS等の活用  
プレスリリース

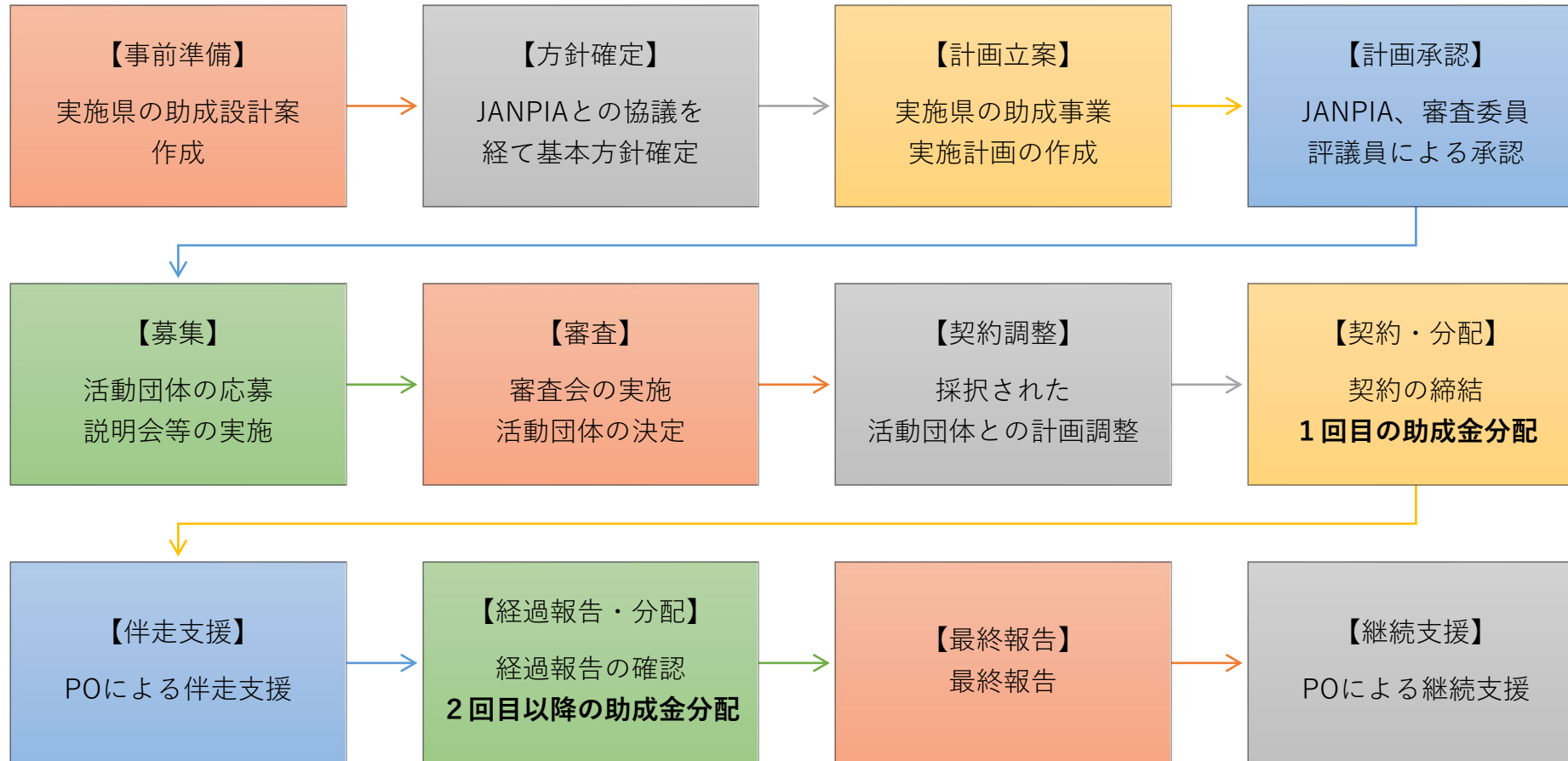
#### 【案件発掘の工夫】

構成団体は常日ごろの業務が各県の地域課題、社会課題への対応です。その知見を活かして、的確に案件を発掘します。

また、構成団体は各県のNPO法人、地縁組織、行政等の市民活動に関連するネットワークを有しています。そのネットワークを活用し、効果的に地域のニーズを捉えます。

## 2. 包括的支援プログラム

### 2.2. 助成金等の分配



助成金等の分配については、左記表のプロセスのとおり実施いたします。

助成金は一括ではなく**複数（5回程度）に分けて支払う**方針です。

**1回目はイニシャルコストを配慮して他回より多めの配分**を想定しています。

また、活動団体の自立に向けて、**2回目以降は配分額を徐々に下げる**ように設定する方針です。

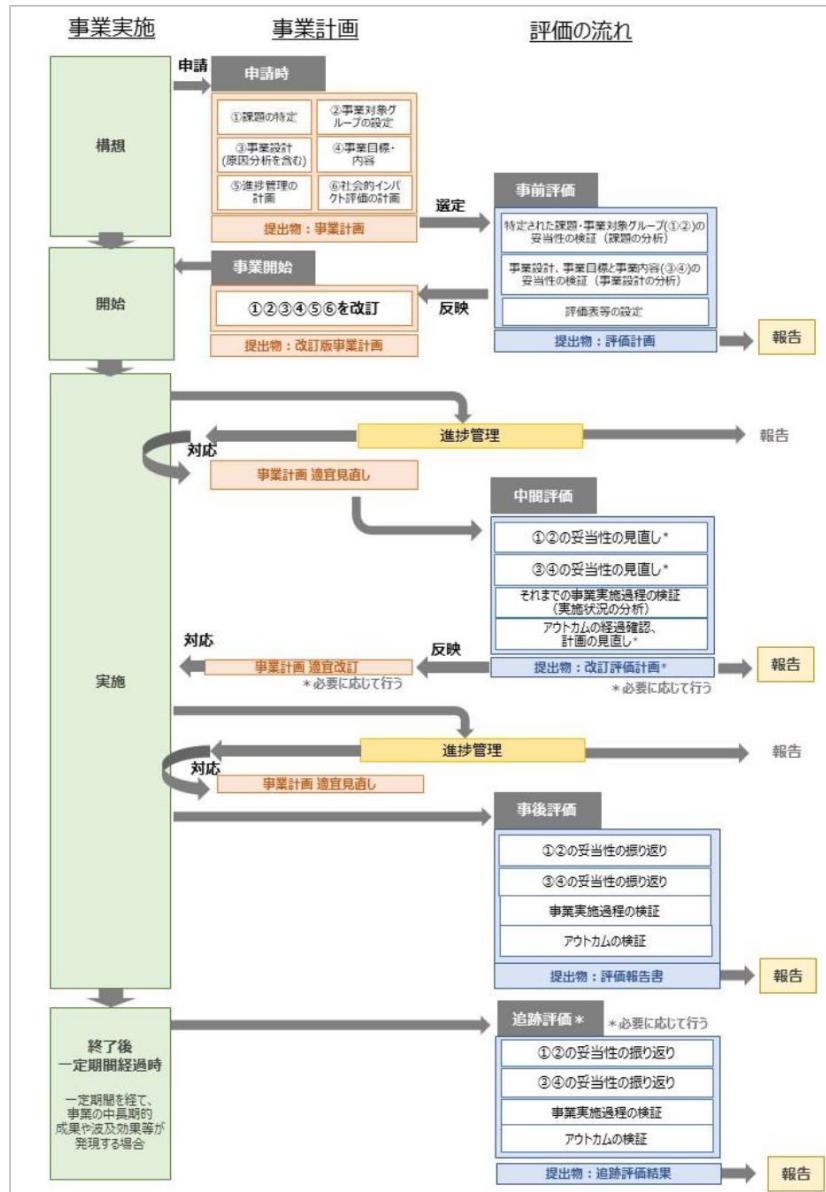
## 2. 包括的支援プログラム

## 2.3.非資金的支援

プログラムオフィサー (PO) による支援	支援の内容	支援の狙い
実行団体 & 担当PO 定例ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 担当POが毎週1回のオンラインミーティングで進捗や課題などを確認します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 進捗管理</li> <li>❑ 関係づくり</li> </ul>
PO課題対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 実行団体に課題が生じた際は、担当POが活動団体を訪問して対応します</li> <li>❑ 担当POで対応できない課題については5県のPOミーティングにおいて協議し対応します</li> <li>❑ 課題が無い場合でも、担当POは定期的に助成団体を訪問します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 課題解決</li> </ul>
専門家による支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 5県POで対応できない課題については専門家をマッチングして支援します</li> <li>❑ 専門家は活動団体からの要望のほか、POやJANPIA等が推薦します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 課題解決</li> </ul>
トラブル対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ トラブル発生時は担当POが活動団体を訪問して対応します</li> <li>❑ 担当POと活動団体間のトラブルについては、他地域のPOが対応します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ トラブル解消</li> </ul>
勉強会 & 交流会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 支援対象となっている複数の活動団体を対象とした勉強会や交流会を実施します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❑ 関係づくり</li> <li>❑ ノウハウ共有</li> </ul>

### 3. 社会的インパクト評価の実施内容と方法について

図表4-1：資金分配団体及び実行団体の事業の流れと社会的インパクト評価の流れの対応



図表5-1：評価計画



**【資金分配団体の自己評価】**  
 社会的インパクト評価の実施内容と方法については、JANPIAより示された『資金分配団体実行団体に向けての評価指針』に沿った実施を想定しています。

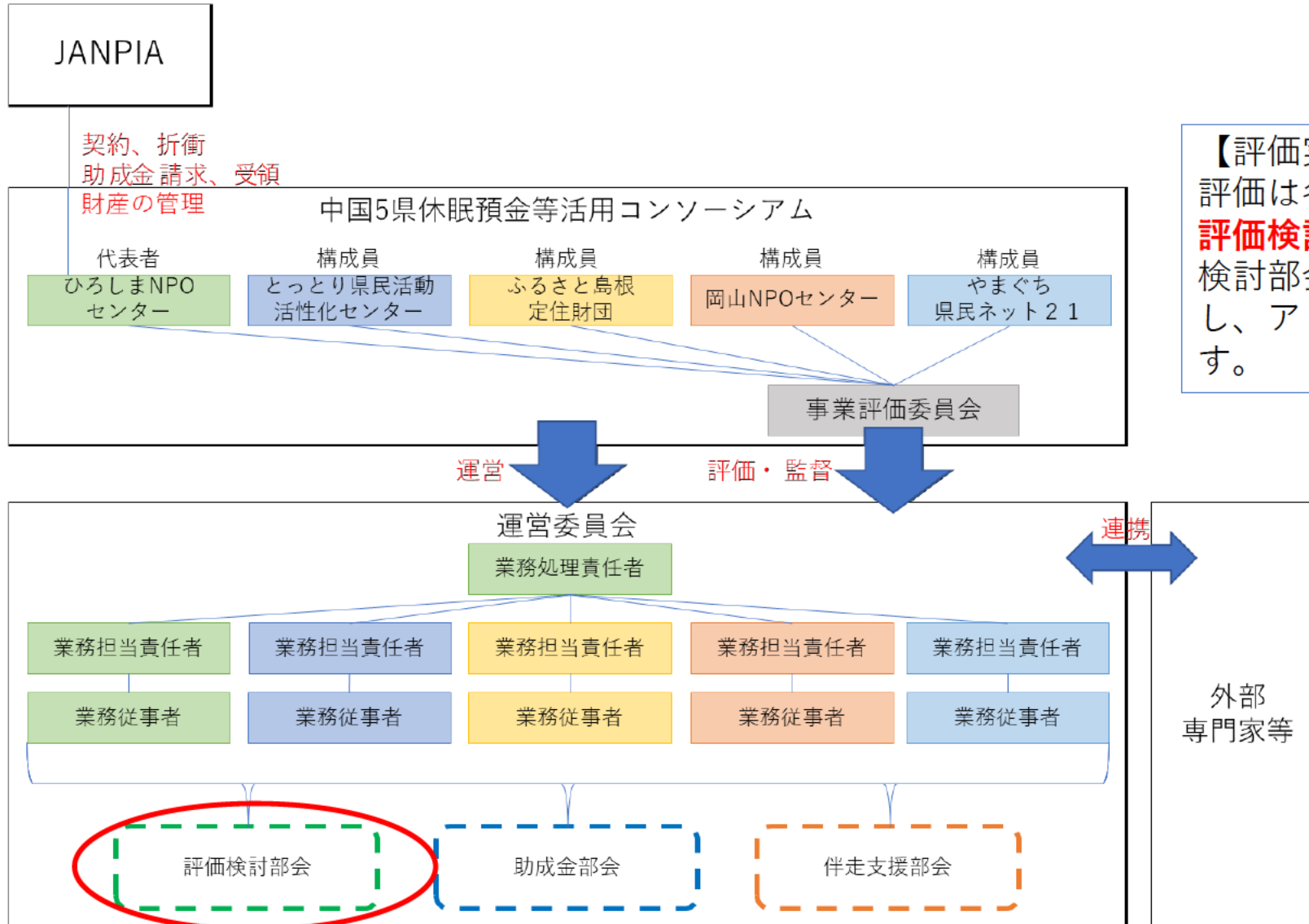
※次頁に続く

### 3. 社会的インパクト評価の実施内容と方法について

【評価スケジュール】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	自己評価							事前評価実施	→				事前評価報告
	活動団体評価												
2020年度	自己評価	事業開始 中間評価実施	→				中間評価報告①	→				中間評価報告②	
	活動団体評価	事前評価実施	→				事前評価報告	→				中間評価報告①	
2021年度	自己評価	→				中間評価報告③	→				中間評価報告④		
	活動団体評価	→				中間評価報告②	→				中間評価報告③		
2022年度	自己評価	→				中間評価報告⑤	事後評価実施	→				事後評価報告	
	活動団体評価	事後評価実施	→				事後評価報告						

### 3. 社会的インパクト評価の実施内容と方法について



**【評価実施体制】**

評価は各県1名、計5名程度のPOからなる**評価検討部会**において実施します。検討部会は必要に応じて外部専門家を招集し、アドバイス等を得ながら評価を進めます。

## 3. 社会的インパクト評価の実施内容と方法について

## 【評価表の設定】

評価項目	評価小項目	主な評価方法	主な測定方法
相互理解の促進	<input type="checkbox"/> ネットワーク参画団体	<input type="checkbox"/> 参加団体数 <input type="checkbox"/> 満足度	<input type="checkbox"/> アンケート <input type="checkbox"/> ヒアリング
人づくり	<input type="checkbox"/> PO育成人数	<input type="checkbox"/> PO研修修了者数	<input type="checkbox"/> PO研修への参加回数カウント
業務基盤づくり	<input type="checkbox"/> 各種テンプレート <input type="checkbox"/> 規約の整備数	<input type="checkbox"/> 各種制作物数	<input type="checkbox"/> 作成資料数のカウント
活動資金づくり	<input type="checkbox"/> 調達金額	<input type="checkbox"/> 寄付者数 <input type="checkbox"/> 寄付金額	<input type="checkbox"/> 人数、金額のカウント
信頼づくり	<input type="checkbox"/> ガバナンス・コンプライアンス整備	<input type="checkbox"/> 第三者組織評価ベーシック評価認定	<input type="checkbox"/> 認定の取得
常日ごろの関係づくり	<input type="checkbox"/> 関係者と共有した時間・取り組み <input type="checkbox"/> ネットワークに還元した知見や経験の数	<input type="checkbox"/> 取り組み実施回数 <input type="checkbox"/> 発信情報数 <input type="checkbox"/> 情報が活かされた回数	<input type="checkbox"/> 実施回数のカウント <input type="checkbox"/> アンケート <input type="checkbox"/> ヒアリング
ネットワークの活性化	<input type="checkbox"/> 実施した協働の数	<input type="checkbox"/> 協働が行われた数	<input type="checkbox"/> 協働事業のカウント

## 4. 進捗管理、リスク管理と持続可能性

### 4.1. 進捗管理

- ・スケジュール（6か月ごとの進捗管理、伴走支援、評価）

#### スケジュール

事業			2019・2020年												2021年												2022年度																					
大分類	中分類	小分類	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
1. 基盤づくり	(1) PO	①PO研修																																														
		②POオンラインMTG																																														
		③PO定例連絡会																																														
	(2) 評価作り	①評価検討部会																																														
		②評価基準調査																																														
		③評価成果作成																																														
	(3) 事業評価	①事業評価委員会																																														
		②事業報告作成																																														
		③事業成果等発信																																														

#### POの活動数

事業			PO活動数					備考		
大分類	中分類	小分類	単位	鳥取	島根	岡山	広島		山口	
1 基盤づくり	(1) PO	①PO研修	3泊4日	11	11	11	11	11	【様式3】記載より JANPIA主催研修@東京	
		②POオンラインMTG	1日	27	27	27	27	27	月1回実施 オンラインMTG	
		③PO定例連絡会	1日	6	6	6	6	6	初年度は年2回、以降は年1回 5県のいずれかで開催	
	(2) 評価作り	①評価検討部会	1日	13	13	13	13	13	現地MTG：初年度は年2回、以降は年1回 OLMTG：2年目以降、POオンライン MTGと同時に開催 (1) ③PO定期連絡会と同時に開催	
		②評価基準調査	2日	6	6	6	6	6	月2回実施	
		③評価成果作成	1日	2	2	2	2	2		
	(3) 事業評価	①事業評価委員会	2日	4	4	4	4	4	4	年度に1回実施 5県のいずれかで開催
		②事業報告作成	2日	4	4	4	4	4	4	
		③事業成果等発信	1日	3	3	3	3	3	3	各年度1回実施、イベント 5県のいずれかで実施

資金分配団体として実施する事業を『**1. 基盤づくり**』『**2. 助成配分**』『**3. 伴走支援**』の3つに分けて整理しています。また、本事業においては3県で助成配分を実施する想定で、ここでは島根、岡山、広島が実施する例で示しています。

#### 【1. 基盤づくり】

POの育成、業務を想定しています。  
本業務は、5県すべてのPOが担当します。



## 4. 進捗管理、リスク管理と持続可能性

### 4.1. 進捗管理

- ・スケジュール（6か月ごとの進捗管理、伴走支援、評価）

#### スケジュール

事業			2019・2020年												2021年												2022年度																						
大分類	中分類	小分類	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
<b>2. 助成配分</b>	<b>(1) 企画</b>	①テーマ決め																																															
		②スケジュール決め																																															
		③助成金額決め																																															
		④選考委員決め																																															
		⑤選考基準策定																																															
		⑥応募要項作成																																															
	<b>(2) 募集</b>	①広報計画策定																																															
		②広報物作成																																															
		③広報実施																																															
		④説明会実施																																															
		⑤Q&A対応																																															
		⑥申込者管理																																															
	<b>(3) 選考</b>	①選考会ガイド作成																																															
		②選考用紙作成																																															
		③PO選考会																																															
		④選考会																																															
		⑤選考結果通達																																															
	<b>(4) 配分</b>	①対象事業の計画作成支援																																															
		②契約																																															
③助成金の振込																																																	

## 4. 進捗管理、リスク管理と持続可能性

### 4.1. 進捗管理

- ・スケジュール（6カ月ごとの進捗管理、伴走支援、評価）

#### POの活動数

事業			PO活動数					備考	
大分類	中分類	小分類	単位	鳥取	島根	岡山	広島		山口
2 助成配分	(1) 企画	①テーマ決め	2日		2	2	2		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		②スケジュール決め	2日		2	2	2		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		③助成金額決め	2日		2	2	2		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		④選考委員決め	2日		2	2	2		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		⑤選考基準策定	2日		2	2	2		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		⑥応募要項作成	2日		1	1	1		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
	(2) 募集	①広報計画策定	2日		1	1	1		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		②広報物作成	2日		1	1	1		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		③広報実施	4日		2	2	2		月2日、3県それぞれで実施
		④説明会実施	2日		2	2	2		3県で各2回実施、イベント
		⑤Q&A対応	4日		2	2	2		月4日 3県で担当者が実施
		⑥申込者管理	1日		2	2	2		月1日、3県それぞれで実施
	(3) 選考	①選考会ガイド作成	2日		1	1	1		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		②選考用紙作成	2日		1	1	1		月2日、3県それぞれで作成 オンライン
		③PO選考会	2日		1	1	1		月1日、3県は参加必須、2件はオブザー バー参加 オンライン
		④選考会	1日		1	1	1		3県で各1回実施、イベント
		⑤選考結果通達	1日		1	1	1		月1日、3県それぞれで実施
	(4) 配分	①対象事業の計画作成支援							※ (1) 伴走支援②課題対応で実施
		②契約	1日		1	1	1		月1日、3県それぞれでフォロー 事務局：広島
		③助成金の振込	1日		1	1	1		3県それぞれで手続きフォロー 事務局：広島

資金分配団体として実施する事業を『**1. 基盤づくり**』『**2. 助成配分**』『**3. 伴走支援**』の3つに分けて整理しています。

また、本事業においては3県で助成配分を実施する想定で、ここでは島根、岡山、広島が実施する例で示しています。

#### 【2. 助成配分】

助成金の企画、募集、選考、配分までを想定しています。

本業務は、助成金配分実施3県の担当POが実施します。

## 4. 進捗管理、リスク管理と持続可能性

### 4.1. 進捗管理

- スケジュール（6か月ごとの進捗管理、伴走支援、評価）

スケジュール

事業			2019・2020年												2021年												2022年度																											
大分類	中分類	小分類	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月										
3. 伴走支援	(1) 伴走支援	①実行団体&PO定例MTG																																																				
		②課題対応（PO対応）																																																				
		③課題対応（専門家対応）																																																				
	(2) 進捗管理	①実行団体&PO定例MTG																																																				
		②トラブル対応																																																				
	(3) 事業報告	①PO月次報告																																																				
		②年度報告																																																				
		③最終報告																																																				

POの活動数

事業			PO活動数						備考
大分類	中分類	小分類	単位	鳥取	島根	岡山	広島	山口	
3 伴走支援	(1) 伴走支援	①実行団体&PO定例MTG	5日		28	28	28		毎週1回実施、基本連絡を取るくらいのイ
		②課題対応（PO対応）	1日		7	3	1		助成先団体へ訪問
		③課題対応（専門家対応）	1日		3	2	1		専門家のマッチング、コーディネート
	(2) 進捗管理	①実行団体&PO定例MTG							※（1）伴走支援①実行団体&PO定例MT
		②トラブル対応							※トラブル発生時対応
	(3) 事業報告	①PO月次報告	1日		28	28	28		
		②年度報告	1日		3	3	3		
		③最終報告	2日		1	1	1		

資金分配団体として実施する事業を『**1. 基盤づくり**』『**2. 助成配分**』『**3. 伴走支援**』の3つに分けて整理しています。  
 また、本事業においては3県で助成配分を実施する想定で、ここでは鳥根、岡山、広島県の3県が実施する例で示しています。

**【3. 伴走支援】**  
 活動団体の実施する事業の進捗管理や課題対応、専門家のマッチング、報告業務を想定してます。本業務は、助成金配分実施3県の担当POが実施します。

## 4.2. リスク管理

### 【リスク管理に対する基本的な姿勢と体制】

リスク発生時には、コンソーシアム協定書に沿って適切に対応をいたします。また、代表者であるひろしまNPOセンターはガバナンス・コンプライアンスを徹底して遵守することの表明として各種規程等を整備し、適切に運営してまいります。※第三者組織評価ベーシック評価認定取得予定（2019年8月上旬～中旬）

事業を運営する運営委員会とは独立した事業評価委員会を立て、自発的に事業評価を実施いたします。JANPIAから管理体制が不十分との指導をいただいた際には適切に対応致します。

### 【リスク対応例①】 実行団体の応募や実行団体への資金分配額が想定と異なる場合

#### ■ 予防

- 原則として、応募に当たっての希望助成金額は、あらかじめ設定した資金分配額と同じ金額とする旨を応募要件とする
- 同時に、3件を採択することから、3件の間での助成額には幅を持たせ、全体予算に変更が内容調整を行えるようにする

#### ■ 対応

- 予算執行できなかつた金額を返金する

### 【リスク対応例②】 実行団体の選定に際し不正の行為があった場合

#### ■ 予防

- 公正な選定を担保できる選考委員を選考し、公正な選考会を実施する
- 選考委員の中に利害関係者がいる場合は、該当団体への選考を禁止するといった選考規約をさだめ、適切に運営する

#### ■ 対応

- 不正の原因を解明し、社会に対して適切に公開する
- 不正の原因が実行団体にあった場合は助成を取りやめる
- その場合は助成金はすべて返金される

## 4.2. リスク管理

【リスク対応例③】 実行団体に対する助成金の活用による助成との事業を適正に実施することができないと認められる場合

### ■ 予防

- 選定後の事業計画づくりの際に、関係者と協議を行い、実現可能な計画となるようサポートする
- コンソーシアム内でPOを担える人材を複数名立てることで、担当POにトラブルがあった際代役を立てられるように備える
- また、代役となったPOがスムーズに実行団体と連携が取れるようPO間で常日ごろから情報共有を行う

### ■ 対応

- 事務局および担当POに実行能力がない場合、あるいはその能力が何かしらの原因で失われた場合はコンソーシアムの他構成団体がサポートする

【リスク対応例⑤】 伴走支援を巡って実行団体とトラブルになった場合

### ■ 予防

- 担当POは実行団体との信頼関係構築に尽力する

### ■ 対応

- 中立的な立場の人材が仲介に入る
- トラブルの原因を明確にし、その解決に向けた計画を立て実施する

【リスク対応例④】 休眠預金等資金の使用に不正があった場合

### ■ 予防

- 事業計画（予算）を実態に合わせてできる限り正確に作成し、その執行に尽力する
- あらかじめ許容できる予算差異をJANPIAと協議し、柔軟に対応できる部分を担保しておく
- 用途の判断がつかない場合はJANPIAとの協議をもってそれを決定する
- コンソーシアム間の経理ルールを明確にし、その通りに実施する

### ■ 対応

- 不正の原因を解明し、社会に対して適切に公開する
- 不正のあった案件については助成の打ち切り、返金も視野に入れた対応を行う

### 4.3. 持続可能性

#### 【持続可能性に関する基本的な姿勢】

当コンソーシアムの構成団体は既存の活動の中で様々な市民活動団体を支援しています。休眠預金事業を実施することで得た知見や経験、ネットワーク等は、既存の活動をさらにブラッシュアップする財産となります。ブラッシュアップされた既存の活動は、再度休眠預金事業を実施する際に活かされます。このように、休眠預金事業と当コンソーシアムの既存の活動はwin winの関係性であると考えています。

また、休眠預金事業にかかわらず、当コンソーシアムの構成員は継続して市民活動団体等を支援してまいります。

#### 【持続可能な活動にしていくための重点要素】

##### ■民間公益活動の自立した担い手の育成

- ・POの育成
- ・実行団体の伴走支援を通じた実行団体の組織基盤強化

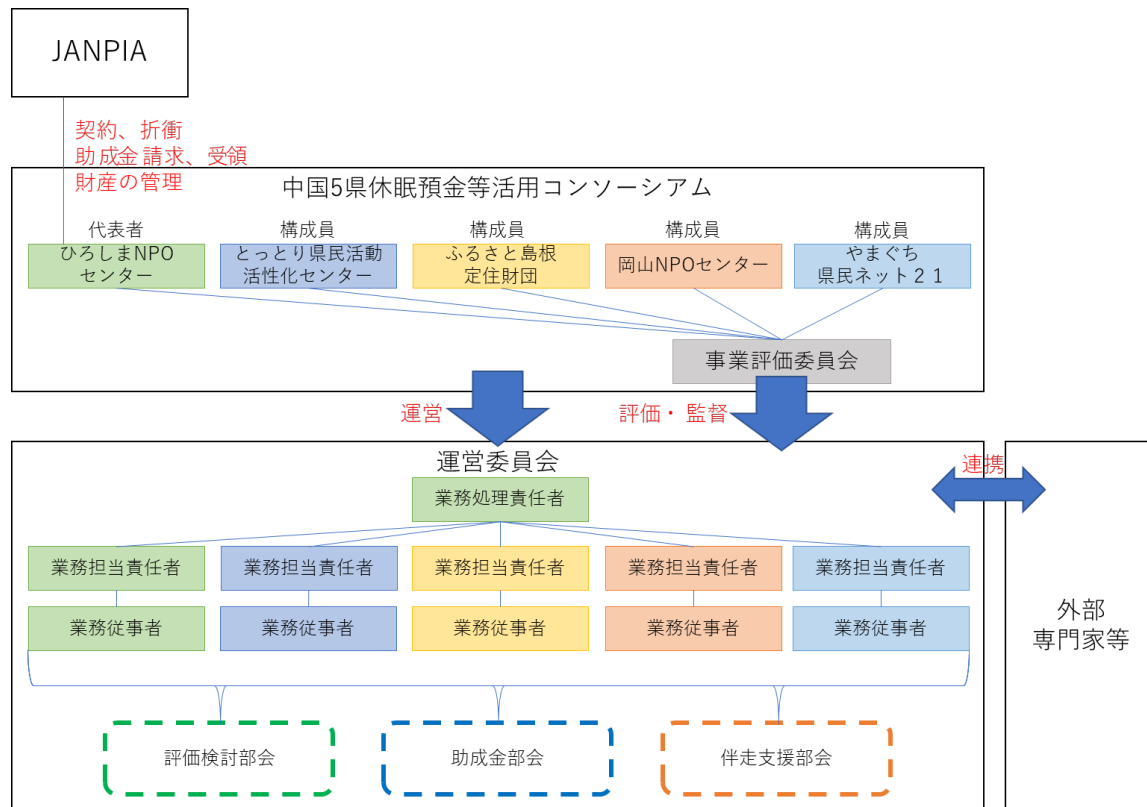
##### ■資金を自ら調達できる環境の整備（民間企業や金融機関等の民間の資金を呼び込むための具体策）

- ・本事業の成果を発信することで社会からの共感を得る
- ・共感から参画への手法を整える（寄付、ボランティア、協働 等）

##### ■社会の諸課題が自律的かつ持続的に解決される仕組みの構築

- ・成功事例を積み重ねる
- ・成功事例を分析し、より効果的に成果を出せるよう知見と経験を蓄積、共有する

## 5. 実施体制と従事者の役割



### ・ガバナンス・コンプライアンス体制

コンソーシアム協定書に沿って適切に対応をいたします。また、代表者であるひろしまNPOセンターはガバナンス・コンプライアンスを徹底して遵守することの表明として各種規程等を整備し、適切に運営してまいります。※第三者組織評価ベーシック評価認定取得予定（2019年8月上旬～中旬）

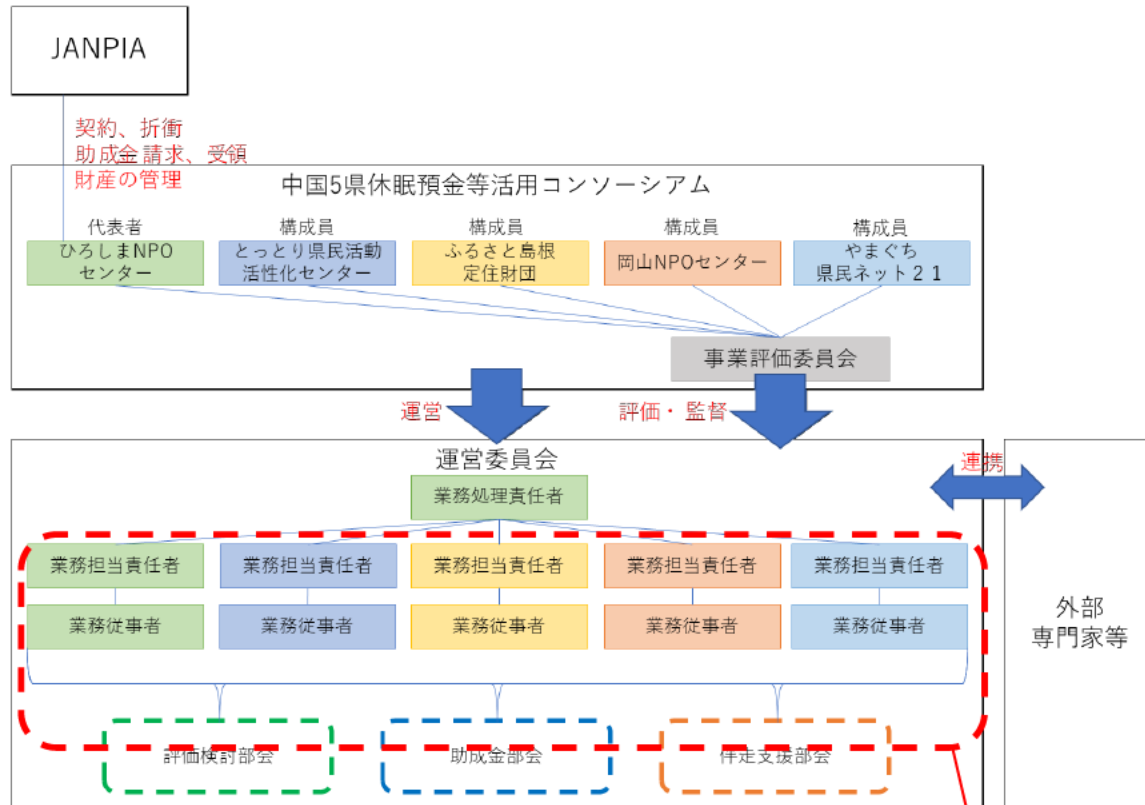
事業を運営する運営委員会とは独立した**事業評価委員会**を立て、自発的に事業評価を実施いたします。JANPIAから管理体制が不十分との指導をいただいた際には適切に対応致します。

### ・事業実施体制の整備

代表者であるひろしまNPOセンターが業務責任者を立て、本業務全体を適切に運営します。各県には業務監督者と業務従事者を置き、県単位で実施する助成事業等を適切に管理、運営します。

5県の知見と経験・ネットワーク等をより活かすため、各種基盤づくりを担当する『**評価検討部会**』、助成金の円滑な運営を担当する『**助成金部会**』、活動団体の伴走支援を実施する『**伴走支援部会**』の3つの部会を設け、適切に業務を実施します。

## 5. 実施体制と従事者の役割

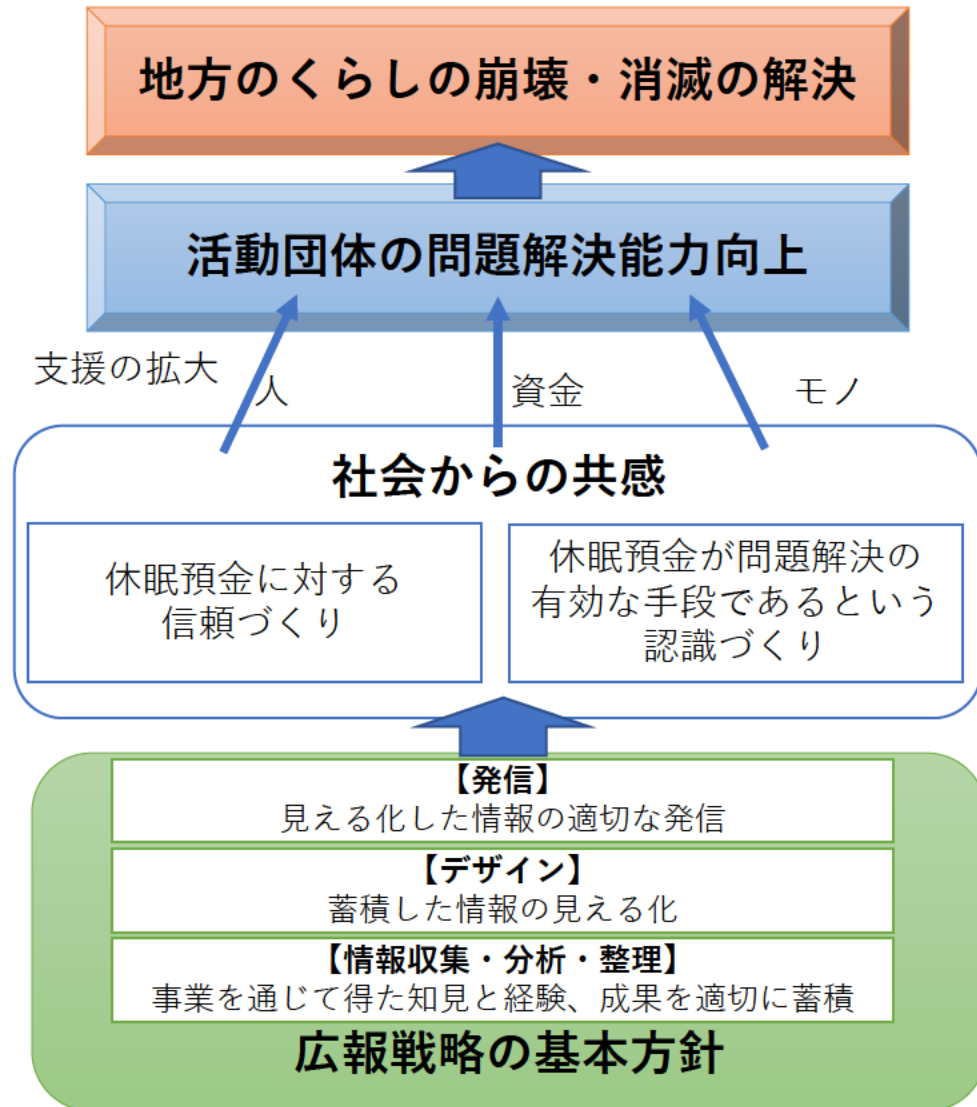


運営委員会メンバーはすべて  
プログラムオフィサー（候補）

- ・メンバー構成と各従事者の役割・担当（非資金的支援の実施体制を含む）**  
 各構成員から2~3名が運営委員会に所属し、実務に当たる想定です。評価検討部会については、5県から1名が参加します。助成金部会と伴走支援部会については、助成事業を実施する3県から1~2名が参加します。
- ・（任意）外部人材の活用**  
 運営委員会は必要に応じて外部人材（専門家）を活用します。想定する外部人材の活用は評価検討部会への助言、助成金部会における選考委員、伴走支援部会における専門家診断、等です。
- ・外部協力者、実行団体等の連携と対話の関係構築をどのように行うのか**  
 すべてのPOがその任にあたります。



## 6. 広報戦略および連携・対話戦略



## ・ 広報戦略

## ■ 本業務における広報の目的

休眠預金活用の成果を広く社会に届けることで、休眠預金に対する信頼感と、休眠預金の活用が社会問題の解決にとって有効かつ効果的な手段であるということを示し、社会の共感を創り出し、活動団体への支援を拡大し、問題解決能力を向上して社会問題を解決することと想定しています。

## ■ 目的達成のための基本方針

**【収集・分析・整理】** 事業を通じて得た知見と経験、活動団体の成功事例を適切に蓄積する

**【デザイン】** 蓄積した情報を見える化する

**【発信】** 見える化した情報を適切に発信する

## 6. 広報戦略および連携・対話戦略

・ 具体的な実施内容、ターゲット、手段、期待される効果等

具体的な実施内容	ターゲット	手段	期待される効果等
報告書の発信	<input type="checkbox"/> 休眠預金に関心のあるNPO・企業・行政等 (潜在的な協働パートナー)	<input type="checkbox"/> HPへの掲載 <input type="checkbox"/> 報告書の送付 <input type="checkbox"/> POによるプレゼン	<input type="checkbox"/> パートナーの獲得 <input type="checkbox"/> 支援者の獲得
日頃の活動発信	<input type="checkbox"/> 活動団体に関心のある市民・NPO・企業・行政等 (潜在的な支援者)	<input type="checkbox"/> SNSによる発信	<input type="checkbox"/> ボランティアの獲得 <input type="checkbox"/> 寄付の獲得
報告会	<input type="checkbox"/> 休眠預金に関心のある活動団体候補	<input type="checkbox"/> 報告会の実施	<input type="checkbox"/> 休眠預金への賛同 <input type="checkbox"/> 休眠預金へのチャレンジ <input type="checkbox"/> 休眠預金チャレンジを通じた組織基盤強化

## 6. 広報戦略および連携・対話戦略

**・ JANPIA、実行団体との連携を進めるための体制と計画**

- 実行団体と担当POの打ち合わせには、休眠預金事務局およびJANPIAも原則として参加するものとして設計する
- 現地へ行くことが望ましいが、時間的制約、経費的制約などがある場合にはSkype等のアプリを活用して場に参加できる工夫を図る
- JANPIA、資金分配団体、活動団体は、お互いを共に事業に取り組むパートナーとして認識する

**・ 他のセクター、団体、企業等の事業への参画、多様な関係者との対話など、それぞれを推進する連携・対話の戦略**

- 助成金の応募要項および審査基準の中にあらかじめ協働を図る項目を設定する
- 単独の取り組みは評価が低く、すでに多様な連携をもっている、または連携を進捗させる計画になっているものを評価する
- 担当POは実行団体が抱える課題の解決に単独で取り組まず、他PO、外部専門家、JANPIA等と共有し、多様な主体を巻き込み、連携・対話をもって課題解決に取り組む

## 7. 関連する主な実績

## 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

- ・ 案件を発掘、形成するための調査研究
- ひろしま未来交流会／自主事業（2014年より毎月実施、2019年3月時点で58回実施）
- 社会的インパクト評価調査／自主事業
- 民間公益活動促進のための休眠預金等活用／全国のNPO支援センターと連携
- 理事・職員の委員・講師等派遣／多数実施
  
- ・ その他、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等
- 平成30年度地域の課題解決に向けたSDGs人材研修業務／環境省
- 平成30年度中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）管理運営等業務
- 2017年度開発教育支援事業／独立行政法人国際協力機構 中国国際センター
- 2017年度JICA中国青年研修「東ティモール中小企業振興コース」／独立行政法人国際協力機構 中国国際センター

## 7. 関連する主な実績

## 公益財団法人とっとり県民活動活性化センター

- ・ 案件を発掘、形成するための調査研究
- 相談対応（来所・訪問等）
- NPO法人経営実態調査／鳥取県（2016年～）
- 「市町村NPO・地域づくり交流会」の開催（2017年～）
- 鳥取県中部地震の復興にむけた「震災復興活動支援センター」運営（2017年～）
- 「SDGs推進会議とっとり」事務局（2019年8月予定）
  
- ・ その他、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等
- 専門家派遣、プロボノによるNPO等支援、職員による伴走支援
- 鳥取県内3ヶ所を拠点とした「とっとり創生支援センター」事業（2016年～）
- 「ととりの元気づくりプロジェクト」支援（2016年～）
- 非営利公益活動広報、地域づくり研修企画、控除対象特定非営利活動法人指定支援の補助／鳥取県
- 寄付つき商品開発普及「お買い物チャリティー」「とっとりカンパイチャリティー」事業
- クラウドファンディング「FAAVO鳥取」運営
- 企業連携寄付配分事業（中国労働金庫、山陰合同銀行、あいおいニッセイ同和損保等）

## 7. 関連する主な実績

## 公益財団法人ふるさと島根定住財団

- ・その他、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等
- 地域づくり人材育成支援事業（H30実績）／のべ396名参加
- 地域づくり活動助成事業（H30実績）／採択20件、助成額18,629千円
- 地域づくり活動フォロー事業（H30実績）／アドバイザー派遣30件
- 社会貢献活動促進事業（H30実績）／285名参加、専門家派遣24件
- しまね田舎ツーリズム推進事業（H30実績）／のべ205名参加、モニターツアー2回実施

## 7. 関連する主な実績

## 特定非営利活動法人岡山NPOセンター

- ・ 案件を発掘、形成するための調査研究
  - 岡山県27市町村の支援力調査/岡山県（2007年）
  - NPO経営実態把握調査/岡山県（2011年）
  - まちひとしごと創生総合戦略での「協働」「NPO」取り扱い度調査（2016年）
  - 平成30年7月豪雨対応 岡山市被災高齢者等の把握業務/岡山市（2018年）
  - 岡山県内における平成30年7月豪雨への民間支援白/JPF（2018年）
  - 岡山市市民協働推進ニーズ調査事業伴走支援/岡山市（2014年～）
  
- ・ その他、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等
  - 岡山市ESD・市民協働推進センター運営業務/岡山市（2014年～）
  - 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター運営/岡山県（2005年～）
  - SDGsネットワークおかやま設立（2018年～）
  - 災害支援ネットワークおかやま（2018年～）

## 7. 関連する主な実績

## 特定非営利活動法人やまぐち県民ネット 2 1

- ・ 案件を発掘、形成するための調査研究
- やまぐち県民活動支援センター管理運営事業／常時相談対応、テーマ型交流会などの実
  
- ・ その他、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等
- 2018年度「災害時における行政・NPO・ボランティア等との連携・協働に向けた研修会」事業／内閣府、山口県
- 2019年度SAVEJAPANプロジェクト事業／日本NPOセンター、損保ジャパン日本興亜株式会社
- 2018年度課題解決の計画書づくりフォロー事業／山口市
- 2019年度ソーシャルビジネス事業化支援業務（ビジネスプラン作成の伴走支援）／山口県